

## LORC 2005年4月スケジュール

### 8日(金) 第1回運営会議

- 時間: 10:00~  
会場: 龍谷大学深草学舎 8号館4F 会議室  
議題: 1) 新年度2005年度予算について  
2) 事業別予算の編成方法について  
3) WGについて  
4) 中間報告作成のスケジュールについて  
5) その他

### 16日(土) 第2班第1回研究会

- 時間: 13:30~  
会場: 龍谷大学深草学舎 紫光館3F LORC 会議室  
テーマ: 「ワーキング・グループの実践活動における情報交換及び共有について」

## 各班活動状況

今回は、この1年間の活動の総括です。

### 第1班 RA 辻本 乃理子

第1研究班の1つ目の研究テーマである、「地域の自立を確立するために必要な参加型・協働型の地域公共政策の形成と実施プロセス」については、パートナーシップ型ガバナンスが進んでいるといわれる英国イングランドの事例を対象に研究を進めた。英国では、現在日本で行われているような個別プロジェクトベースのパートナーシップという段階を超えて、プログラムベース、さらに総合的な政策形成レベルでのパートナーシップといったものが形成されつつある。中でもローカル・コンパクトと地域戦略パートナーシップ(LSP)の2つの政策は、ローカル・ガバナンスや地域の持続可能な発展の実現のために参考となるものであることが確認された。一方で、日本で参加や協働を推進・実現する際に必要となるしくみや仕掛け、骨組みなどを提示するにあたり、これらイギリスの事例をどのように結び付けて活用するのかについては、研究員の認識が一致しておらず、議論不足が指摘された。来年度は、このような課題をしっかりと認識しつつ英国での現地調査を行い、日本における参加型・協働型の地域政策の理論

的枠組みづくりを行っていく。また、地域包括予算・補助金を用いた地域政策の社会実験を、東京農工大 COE と三重県とともに、三重県松阪市において実施する。

2つ目の研究テーマである、「参加・協働型地域公共政策を担う地域人材像の提示」については、さらに議論を深める必要がある。というのは、これまでの調査で、欧米、とくにイギリスにおける「地域人材」像の把握に努めてきたがまだ充分とは言えず、また、それら欧米の「地域人材」像、それはつまり異なる文化や政治・社会システムのなかで培われてきたものであるが、それと日本で現在必要とされる「地域人材」との関連性について、いまだに統一した見解を見出せていないからである。

ローカル・コンパクト、LSP、そして三重県のプロジェクトについては、ブックレットを出版する予定である。

### 第2班 RA 新井 健一郎

2003年度から2004度前半にかけて、第2班では自治体職員研修の現状調査と分析を行った。それを足がかりとしつつも、2004度後半からはNPOなどを含めた「地域人材」育成の視野に立ち戻り、教育・研修システムの構

築に向けて来年度以降の研究展開を検討してきた。その結果、2005年度からは教育システムワーキング・グループと研修システムワーキング・グループを班横断的に立ち上げ、それぞれ実践のための拠点をもちながらプログラムとシステムの設計・試行を進めていくこととなった。教育システムワーキング・グループは、これまでも進めてきた事例調査を深めつつ大学コンソーシアム京都や公共政策系学部長会議と連携して大学における地域人材教育のあり方を模索、また、研修システムワーキング・グループは、自治体職員研修調査から得られたデータや問題意識を活かしつつ熊本市の協力を得て研修を試行する予定としている。

なお、2005年度第1回研究会は4月16日(土)13:30から開催する。

### 第3班 RA 田村 瞳

\* 第3班は3月末に多くの活動があったため、3月の活動報告と年間総括を分けてお知らせします。

#### <3月の研究活動>

3月19日(土)に第8回研究会が開催され、前回から継続協議となっていた提言書の取りまとめ及び2005年度以降の第3班の研究活動について話し合われた。提言書の取りまとめに関しては、来年度文部科学省に10ページ程度の提言書を提出することで合意した。それとは別に、2年間の第3班の研究活動の成果及びその提言書の詳細な説明を、来年度の後半に出版することが確認された。また、同日に、東京大学公共政策大学院長の森田朗先生を招聘し、東京大学の公共政策大学院の設置経緯やその特徴及び公共政策大学院の今後の展望についての講演会を、LORCと龍谷大学学長室の共催で開催した。3月25日には、昨年度の11月に開催したコンファレンスのフォローアップのためのディスカッション・テーブルを開催し、NPO・自治体職員など地域社会を担う「地域公共人材」の教育・研修システムにおける課題や、それに関連する新システムの構築等について活発な意見交換が行われた。

#### <総括>

参加型・協働型の政策形成や人材開発システムの構築を研究目的として設置されたLORCにおける第3班の役割は、それらのシステムの評価及び認証をどのように行っていくかであった。そのため、国内においては、公共政策系大学院の認証評価に関する動向を中心に専門職大学院の認証評価システムについて検討し、海外においては、英・

米・独の公共政策系大学院の特徴や認証評価システムについて検討してきた。秋には、米国の認証評価機関に長年携わってきた米国の研究者を3ヶ月間招聘し、共同研究を行った。これらの結果、当初の公共政策系の認証評価機関の設立及びそのシステムの構築だけでは、現在の自治体等が抱える問題を解決するには不十分との認識で一致した。特に地域人材開発視点の欠落(詳細は来年度の後半に出版予定)と自治体の職員採用及び人事管理との運動性の確保が問題点として指摘された。これらの問題に対処するには、現行の法律上の要請によるものではなく、地域社会の要請に適合する認証評価システムが必要であるという結論に達し、その認識をもとに、地域公共人材が効率的に活用される包括的なシステム設計を提言していくことで最終合意された。上述したように、そのシステム設計の詳細な説明及び第3班の研究成果をまとめたものを2005年度の後半に書籍として出版する予定である。また、2005年度に認証評価機関及びその制度(の解説)についてのブックレットも出版することになっている。第3班は、2004年度で2年間の研究活動を終了し、2005年度はその成果を提言書としてまとめる段階に入るため、しばらく活動を休止する。今後、3班研究員は必要があれば再召集(5年度目に)されるが、それまでは、班を越えたプロジェクトや他班の活動に随時協力してもらうことで合意した。

### 第4班 RA 金 湛

LORC第4班の研究テーマは、地域の参加型、協働型の仕組みづくりにおいて住民がどのように参加していくのかに注目し、先進国と途上国の例を互いに応用する道を模索することである。研究方法として、アジア・アフリカから3カ国ずつ選択し、その6つの国の経験を基に比較研究を行う。具体的には、それぞれの国特有の事情を考慮した上で、新しい時代の地方分権化の制度の構築を検討し、それらを比較研究していく。この研究方向と研究方法に基づき、第4班の2004年度の研究活動は以下の通りに行われた。まず、研究会が6回開かれた。1回目の研究会は京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科と共同で開かれ、アフリカのジェンダー研究の専門家 Dr. Aili Mari Trippを招聘し、学術交流を行った。第4回の研究会では聖母女学院短期大学のインド研究の専門家浅野直之氏を招聘し、第4班の研究者と共にインドのパンチャーヤト制度について議論を行った。さらに、11月に開催されたLORCオランダ国際シンポジウムの際に第5回の研究会を開き、海外の招待研究者から対象国の現状報告を受け、

これからの研究体制について議論をした。それ以外の研究会の議題は、主に第4班の運営や研究体制に関するものであった。来年度は日本国内と海外の研究者がペアとなって国別に担当を決めて研究を進めていくことになっているため、日本国内では国担当の振り分け、海外では研究のた

めの人脈作りも進められた。こういった状況の中、インドの研究がもっとも進み、住民参加による地方分権の研究が本格的に動き始めた。また、今年度の活動に関して、各国での研究において統一性が欠けているという指摘があり、今後の課題として確認された。

## LORC information

### 2005年度PD・RA体制の変更について

昨年4月より1年間お世話になって参りましたPD・RAチームですが、新年度から体制が変更することになりました。といっても、メンバーはそのままで、担当班の組み換えのみです。それと第3班の活動休止に伴い(上記第3班報告参照)新たにプロジェクト(ワーキング・グループ)担当RAが新設されました。この組み換えによるマイナス面も指摘されましたが(1年間の経験の蓄積が無駄になるなど)、1年間の仕事状況を鑑みて、より適材適所な配置で新年度に望むほうがLORCプロジェクトにとって有益になるだろうと最終的に判断されました。配置が変わりましても、チーム一丸となってLORCプロジェクトの成功のために尽力していくスタンスは変わりません。本年度もどうぞ宜しくお願い致します。

#### 2005年度新体制

PD: 的場 信敬(留任)  
第1班RA: 辻本 乃理子(留任)  
第2班RA: 田村 瞳(第3班より異動)  
第4班RA: 新井 健一郎(第2班より異動)  
プロジェクトRA: 金 湛(第4班より異動)

## LORC 資料室内文献紹介

LORCでは資料室の文献充実に日々努めております。現在LORC資料室に所蔵する書籍については、LORCのウェブサイト(<http://lorc.ryukoku.ac.jp/>)でリストがご覧になれます(Flash版は、トップページより、研究支援 研究関連資料 LORC全体、HTML版は、研究支援 資料図書一覧)。なお、新年度以降も引き続き皆様からの有益な文献・映像資料などの情報をお待ちしております。皆様ご協力宜しくお願い致します。

雑誌の情報は以下のサイトへ!

ガバナンス

[http://www.gyosei.co.jp/book/g\\_zassi/gover/index\\_gover.html](http://www.gyosei.co.jp/book/g_zassi/gover/index_gover.html)

日経グローバル

<http://www.nikkei.co.jp/rim/>

## 掲示板

### 第2班代表土山先生が無事にアイルランドに到着されました。

3月から1年間の予定でアイルランドに滞在中の土山先生から、無事に新居も見つけて新しい生活をスタートされたご報告を頂きました。土山先生ありがとうございました。あちらでたくさん調査されて、LORCにも色々とお知らせを頂ければと思います。土山先生、1年間がんばってくださいね！！

### 新聞・雑誌などの記事について

新聞、雑誌などにご自分の記事が掲載された時は、ぜひLORC支援室の場 ([matoba@rnoc.fks.ryukoku.ac.jp](mailto:matoba@rnoc.fks.ryukoku.ac.jp)) までお知らせ下さい。こちらでも出来るだけピックアップするようにしていますが、すべてをカバーするのは困難ですので、宜しくお願い致します。

## LORC 研究員のひとこと (紹介)

今月の研究員紹介はお休みさせていただきます。次回をご期待下さい。

### 編集後記

街でマスク姿の人をよく見かけるようになりました。花粉症ではない私にとって、その苦しみはわかりませんが、明日はわが身と思っています。1年間お世話になりました。引き続きお世話になります。よろしくお願ひ申し上げます。(N)

2005年度もよろしくお願ひいたします。(K)

最近、運動不足解消のために自転車で出勤しています。周りからは無謀と言われましたが、今のところ3日坊主にはなっていません。頑張って続けていきたいと思ひます。(H)

この一年間、就職したことのない私にとって貴重な仕事の経験となりました。皆様にいろいろ教えていただきまして、誠にありがとうございました。皆様に教えていただいたことをこれからの仕事に活かしたいと思ひます。来年度から、RAの配置が変わり、私はプロジェクト担当のRAになります。仕事の詳しい内容についてまだ分かっていませんが、全国に飛び回ることあるかもしれません。これからもよろしくお願ひいたします。(Z)

早いもので京都にやっけてきてからもう1年が経ちました。至らないところが多々あったと思ひますが、スタッフや研究員の皆様のおかげで何とか1年間勤めさせて頂きました。どうもありがとうございました。残念に思われるかもしれませんが、今年もご一緒させていただきます。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。(T)

LORC Newsletter Vol. 10, 31 March 2005

編集・発行：龍谷大学地域人材・公共政策開発システムオープン・リサーチ・センター (LORC) 支援室

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67

TEL: 075-645-2312 FAX: 075-645-2240

E-mail: [matoba@rnoc.fks.ryukoku.ac.jp](mailto:matoba@rnoc.fks.ryukoku.ac.jp) (PD 的場) WEB: <http://lorc.ryukoku.ac.jp/index-jp.html>